

意見陳述書

2019（平成31）年1月18日

佐賀地方裁判所民事部 御中

原告 田代 眞人

1 はじめに

東日本大震災の2011年3月11日も今も、私と妻の二人は、爆発した東京電力福島原発から90キロ圏の栃木県那須高原に住んでいます。玄海原発からこの裁判所まで60キロ、90キロは熊本県荒尾市辺りだと聞いています。

裁判官の皆様、列席のすべての皆様、私たちの体験は、あすの、皆様方の体験となるかもしれない。今なお、放射能汚染地に住まなければならない私たちの気持ちをお話いたします。

私は1943年、玄海原発30キロ圏の長崎県佐世保市北部の世知原町に生まれ育ちました。広島大学へ進学し、被爆者のケロイド姿の日常風景に強いショックを受けました。東京で新聞記者として37年間、定年後は、妻と二人で2007年暮れに那須高原に移り住みました。

2 原発事故

大震災の地震に続き我が家を襲ったのは、原発爆発による大量の放射性物質でした。那須町は福島県中央部と同程度の放射線量で、福島県と同じ「放射性物質汚染対処特措法に基づく汚染状況重点調査地域」に指定されました。

わが家は、惚れ込んだ建築家に、直接手紙で設計を依頼、私と妻の思いがこもった家です。新居で妻は、好きな庭作りに熱中しました。計画を立て、木を植え、草花を育てていました。それが一瞬にして暗転。ぼう然とする妻。今も放射性物質は毎日1272万 bq 放出（東電 HP）されています。無駄と分かりつつ、ゴシゴシと家の周りや床を雑巾でふき、箒で掃き取る妻の姿に、「こんな理不尽があつていいのか」と悔し涙が溢れます。

3・11 その日、私は那須町議会の取材中。波打つ床、壁。命からがら我が

家にたどり着くと、大黒柱にひび。町の判定は「半壊」でした。14日、15日には、隣の福島方面から、人も荷物も満載の車が何百台も列をなし、道の駅の駐車場は溢れ、野宿した人もいました。町の体育館には300人が殺到、旅館、ペンションも、御用邸のお風呂も解放されました。

6月頃やっと大学の友人から高性能測定機を借り受け、あちこち測りました。

雨どい下で毎時 $3\mu\text{Sv}$ 、仰天して土はすぐ庭の隅に埋めました。わが国の法令は、一般人の被曝限度を空間線量で年間 1mSv 。毎時 $0.23\mu\text{Sv}$ としています。知人宅の雨どい下毎時 $10\mu\text{Sv}$ には驚愕しました。孫との同居が唯一の楽しみの老夫婦の落胆ぶりには胸がつまりました。町が30か所で測定を始めたのは9月。3年後国と町による除染が1回ずつ。宅地全体除染の福島県内と違い、屋根下深さ5cmで帯状に土を剥ぎ砂利を敷き、剥いだ汚染土は自宅の庭に埋める。栃木県と那須町等指定8市町は、緊急に福島県と同じ除染を政府に申し入れましたが、聞き入れられません。福島県外で汚染土の保管量が最も多いのが那須地域です。同じ放射線なのに福島県と差別された私たちの必死の戦いです。

汚染された車の買い替え、食物の取り寄せ、調理の工夫、ストーブの灰の処理まで、すべてに気を使いました。なによりも、呼吸することに注意が必要な生活。こんな不条理は誰が作ったのでしょうか。

われわれ住民への補償は一切ありません。那須町、那須塩原市、大田原市の市民ら7千人余りがADRという裁判外処理を申し立てましたが、門前払いでした。

3 子ども甲状腺検診の活動

私は2003年来の被爆者集団訴訟判決で広島・長崎被爆者の苦しみは内部被曝によること、それは子どもたちへ甲状腺がんとして現れやすいことを知りました。政府と福島県は全ての子ども甲状腺検査を行っています。しかし県外では全く行いません。私は、2011年末に立上げた「市民と科学者

の内部被曝問題研究会」から社団法人を独立、2015 年から自力で子どもたちの甲状腺検診を行っています。子どもたちの健康を守るのは大人の義務です。

甲状腺をエコー機でチェックする検診は 1 度に 70 人が限度です。医師、エコー機、看護師、スタッフ、財源すべて自前です。東奔西走、筆舌に尽くしがたい苦勞ですが、幸い、ノーベル賞の益川敏英さんなど理解者も広がり、年に 2 回、今日まで 8 回 600 人の検診を続けています。子どもたちや母親のほっとした顔、有りがとうの声、ずっと続けてとの声に、励まされています。なぜ国は行わないのか。

4 重大な岐路に立つ原子力行政

原子力行政はいま、差別なく国民の不安・心配に寄り添えるのか、重大な岐路に立っています。政府は、除染は終わった、福島人は戻ってほしい、と言いますが、3 万人も戻らない。放射線への不安が消えないのです。政府や規制委員会は、放射線の被曝基準を緩めるという逆さまのことをやってまで福島帰還を促し、汚染土や汚染水も全国に拡散しようとしています。

住民や子を持つ親御さんの不安や心配ある限り、私たちは全力を尽くす。当然です。まして政府に於いてをや、です。原発事故をもたらした責任、子どもたちに健やかな未来を残す責任。裁判官の皆様も、東京電力の皆様も、私たちも、人間としてその責任を全うしなければならないと思います。

以上

原発汚染地図 (添付)

<http://hibakutokenkou.net/information/detail.php?t=&rid=13>